

# 脱プラ対応 県央に新工場

アミカテラ(東京) 来夏にも稼働

微生物の働きによって自然界で分解される「生分解性プラスチック」を製造・加工するアミカテラ(東京)は7日、県央地域に工場を新設する計画を明らかにした。国内外で高まる「脱プラスチック」の需要に対応。食品残さも原料に活用し、リサイクルにもつなげる考え。

熊本工場は生分解性プラ という。約20人の雇用を製造と加工の両方を担 込む。

現在、建設地を詰めて 同社の生分解性プラスチックは、来年初めに着工、夏 秋は、竹や茶がらといっ ころに稼働させたい考え。 た植物繊維のセルロースを生分解性ストローを日産50 粉砕し、でんぷんと植物由 万本製造できる設備を置く 来の樹脂、水を加えて作る。



アミカテラが製造する生分解性プラスチックのストローや包装容器

## 竹など原料 生分解性ストロー製造

できた生分解性プラはストローやフォーク、スプーン、皿、包装容器などの製品に加工する。

同社によると、製品はマイナス20度〜120度の温度変化に耐えられ、耐用年数は2〜3年。土の中で3〜6カ月で完全に分解される。粉砕して再利用することも可能という。

アミカテラは2016年設立で、国内外に製品を供給。ストローは、居酒屋チェーンのワタミが6月から店舗で導入した。

現在、生産拠点は台湾のみで国内工場の開設は初めて。熊本は原料となる竹林が豊富な九州の中心に位置し、原料調達面などで地の利を生かせるため進出を決めた。

同社の生分解性プラ製品は通常のプラスチック製品より市場価格が15〜20%高いが、輸送コストの削減や大量生産により価格差を縮めていく考え。

社名はラテン語で「地球に優しい」を意味するといふ。古賀緑社長(熊本市出身)は「脱プラスチックは世界の時流。熊本から地球に優しい社会の実現を目指す」と話している。

(中原功一朗)